

平成28年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として日々の教育活動に全力を尽くし、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、学力を着実につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現をはかるとともに人格の完成を目指す ③地域等と連携し、開かれた学校づくりを進めるとともに安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価		年度評価		
年度目標	平成28年6月21日実施	C(評価)	達成度	
番号	現状と課題	P(具体的方策)及びD(実行)	A(次年度への課題と改善策)	
1	<p>○本校生徒の多くは基礎学力定着のため、中学校以前の学習から振り返る必要がある。授業は45分間で設定されている。教員は考えながら創意工夫しているが、受動的な学習になりやすい。一斉授業についていけない生徒のために、個々への対応や、毎週の基礎講座等の実施を行っている。また、本校の中で比較的成績が上位の生徒に大学進学等も含めて、高度な教育機会を与えていくことが必要である。昨年度、ICT機器やアクティブラーニングを取り入れた授業に取り組み始めたが、さらなる実践と研修が必要である。</p> <p>◎これらの現状を踏まえ、生徒が受身だけの授業にならないように工夫していく必要がある。学習に必ずしも前向きではない生徒に対し、興味関心を持たせ、基礎学力の定着と共に学ぶ喜びを持たせることが課題である。基礎講座等の基礎学力定着の学習機会を設定していくほか、今年度はICT機器を活用し、アクティブラーニングを取り入れた授業についての実践と研修をより一層推進するなど、引き続き授業改善に取り組む必要がある。このほか、SDMの授業をより充実したものにするための取組みを進める。</p>	<p>①45分の授業時間を有効に使うためのシラバス作成をする。 ②生徒の基礎学力を的確に把握するため、毎学期1回の実力テストを実施する。 ③実力テストの結果を受けて、毎週月曜日に基礎講座を実施する。 ④文書能力検定等の資格にチャレンジさせる。ビジネス文書実務検定合格者50人以上を目指す。 ⑤毎学期1回以上、全ての教員によるICT機器を導入した授業を行う。アクティブラーニングを取り入れた授業改善にALO委員会が中心となって取り組む。 ⑥全生徒への授業アンケートを実施し、授業満足度90%以上を達成する。 ⑦福祉科の施設実習を充実させるために、週1回の現場実習を計画的に実施する。 ⑧福祉の各種検定を実施し、福祉住環境コーディネーター試験、社会福祉・介護福祉検定試験の80%以上の合格を目指す。 ⑨一年間を通してSDMの授業を発表まで行い、成果を挙げ、受講している90%以上の生徒に効果を感じさせる。</p>	<p>①昨年度実施した研修を生かし、年度当初に全ての教科のシラバスを作成し、授業に反映させた。 ②③毎学期の始めに実力テストを実施し、その結果を受けて、毎週月曜日に基礎講座を実施した。 ④資格取得においては、ビジネス文書実務検定受験者に87人、電卓検定に30人、社会常識能力検定に31人、英語検定に9人がチャレンジした。ビジネス文書実務検定の合格者は72人であり、目標を大きく上回った。 ⑤ALO委員会が中心となってアクティブラーニングの研修会を11月に実施し、全ての教員がICT機器を導入した授業を毎学期1回以上行った。 ⑥生徒の授業満足度は79.4%であり、90%には届かなかった。 ⑦毎週火曜日に、福祉科介護福祉コースの生徒が施設実習を年間を通して計画的に実施することができた。 ⑧社会福祉・介護福祉検定は70%、福祉力検定は75%の合格率となったが、福祉住環境コーディネーター試験は合格者が出なかった。 ⑨SDMの授業を一年間を通して実践した。8月29日に中間発表会を行ったほか、2月20日に慶應義塾大学大学院日吉キャンパスにおいて、6つのグループが約10分ずつのプレゼンテーションを行い、大きな成果を収めた。</p>	A
2	<p>○年間を通して厳しくも温かい生徒指導が行われている。生徒の服装・頭髪を指導するだけでなく、体調や心理状態も把握でき、問題行動や不登校等を未然に防止するため、登下校指導を行なっている。また、チャイム着席や整然とした授業により、学業や卒業に対する意識を高め、中途退学者を減少させている。数年前と比較して問題行動は減少し、安心安全な学校が定着してきている。教員による休み時間や授業中の巡回は年間を通して行われている。生徒が教員に対して相談を行いやすいような教育環境が整ってきている。時間厳守・話を聞く指導を素直に受け入れる、という本校の生徒指導の基本があらゆる教育機会でも実践されている。また、生徒の服装等の身だしなみについても力を入れている。進路指導は、進路決定率ばかりではなく、生徒に本当に合った進路であるかという進路適性率を高める必要がある。</p> <p>◎今後も引き続き粘り強く生徒指導を徹底していく必要がある。問題行動を起さない、また、起さないような環境を作り出す積極的な生徒指導が必要である。昨年度三学期から強化した身だしなみ指導にもさらに力を入れる必要がある。本校には教育相談を必要とする生徒が多く、相談しやすい環境整備が必要である。進路指導においては、計画的に進めると共に、高卒求人の新規開拓も必要である。</p>	<p>①登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導を毎日実施し、頭髪服装での指導件数ゼロ、年間延べ遅刻者数300人以下、交通事故件数ゼロを目指す。 ②チャイム着席、挨拶の励行を随時指導すると共に、休み時間や授業中の教員の校舎内巡回を実施する。チャイム着席率100%を実現する。 ③問題行動を未然に防ぐため、担任指導・学年集会を有効に実施し、昨年度比で問題行動50%減、退学者30%減を目指す。 ④安全な教育環境の整備のため、毎日の日常点検と、学期1回ごとの設備定期点検を行う。 ⑤教育相談の充実、学校カウンセラー等との連携を密にして、情報を共有する。 ⑥3年間を見通した計画的な進路指導の実践、分野別学校説明会を実施し、進路決定率95%以上、進路満足度90%以上、3年離職率30%以下を目指す。 ⑦継続的採用と新規採用企業開拓のための企業訪問を積極的に行い、求人件数20%増を目指す。</p>	<p>①登下校指導、服装・頭髪指導を毎日実施し、頭髪服装での指導件数はゼロ、年間延べ遅刻者は485人、交通事故件数は1件であった。 ②教員による校内巡回を実施し、生徒は落ち着いて校内生活を送るようになった。チャイム着席率は73.6%であった。 ③問題行動の未然防止のため、担任指導や学年集会等を実施し、問題行動は30%減少した。また、退学者については昨年度と同数であった。 ④安全な教育環境整備のため、毎日の日常点検と、学期1回ごとの設備定期点検を行った。 ⑤校長、養護教諭、カウンセラーが月1回の情報共有を行い、学年と養護教諭が定期的に会議をもつなど教育相談体制が充実・推進した。 ⑥3年間を見とおした計画的な進路指導を行い、分野別の説明会等で進路に対する意識の向上に努めた。進路決定率は2月7日現在で88.7%、進路満足度は81.6%となった。3年離職率30%以下を目指して指導継続中である。 ⑦求人件数は昨年度より微増で目標には届かなかった。継続的採用はほぼ維持できた。</p>	B
3	<p>○地域に根ざした学校づくりは本校の大切な方向性である。地域活動においては、ボランティア部が中心となり、市内のイベント参加や高齢者宅の訪問、震災復興元氣市への参加など地域と連携した活動に積極的に取り組んでいる。また、生徒募集は最も重要な業務でもある。本校への希望者は年々増加傾向にあるが、定員を毎年100%満たしてはいない。また、開かれた学校づくりのための授業公開を実施している。</p> <p>◎今後も地域に根ざした学校としての役割を果たしていく必要がある。夏と秋の飯能まつりへの積極的なボランティア参加を行うほか、高齢者宅への訪問や慰霊祭への参加等も引き続き行っていく。計画的な中学校訪問を実施することにより、強い信頼関係を築いていく必要がある。HPは有効な広報手段であり、毎日の更新や情報の掲載は今後も続けていく。</p>	<p>①日常的な授業公開を行うと共に、2週間の学校公開期間を年間に1回設定し、開かれた学校づくりを推進していく。 ②市内8校の中学校と市外中学校への出前授業の実施及び上級学校訪問の積極的受け入れを実施する。上級学校訪問受け入れ50%増、市外への出前授業20%増を目指す。 ③飯能市の夏・秋まつりへの積極的なボランティア参加を継続的に実施し、参加する生徒人数20人以上を目指す。 ④市内高齢者住宅へのボランティア訪問を実施し、参加生徒数10人以上を目指す。 ⑤震災復興元氣市へ継続的に参加し、参加生徒数20人以上を目指す。 ⑥中学校訪問等による積極的な生徒募集活動を行い、福祉科40名、普通科40名の定員を確保する。 ⑦情報の積極的発信のため、HPを毎日更新する。 ⑧生徒募集を組織的に行う委員会を中心に活動する。</p>	<p>①日常的に授業公開を行い、開かれた学校づくりに努めた。また、2週間の学校公開期間を11月に実施した。 ②市内8校の中学校と市外中学校への出前授業及び上級学校訪問は昨年度と同様であった。 ③飯能市の夏・秋まつりへのボランティア参加者は20人であり、目標を達成した。 ④市内高齢者住宅へのボランティア訪問参加者は11人であった。 ⑤震災復興元氣市へ継続的に参加し、参加生徒は20人で、目標を達成する見込み。 ⑥全教員で中学校訪問や各種説明会等に参加し、積極的な生徒募集を行ったほか、学校説明会を昨年度25%増の15回行った。2月17日時点での本校入学手続き者数は61人と昨年度(2月18日時点で54人)の13%増となっており、80人の定員確保が見えてきている。 ⑦HPを毎日更新し、今年度の更新回数は2月17日時点で258回(昨年度2月18日時点で256回)であった。情報の積極的な配信を行った。 ⑧入試募集委員会を組織し、広報活動や学校説明会等の中心となって活動した。</p>	A

学校関係者評価	
実施日	平成29年2月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・校長が作成した写真入りの資料を見て、多様な教育活動を用意していると感じた。生徒たちが生き生きと活動している様子や、先生方に大切にされていることが伝わってきた。生徒一人一人を大切にしているからこそ、子どもたちは基礎講座・各種検定やマラソン大会等で頑張るのではないかと感じた。 ・SDM参加生徒は自信を持っており、まとめる力が付いた。学校のPRにも繋がっている。 ・大川学園高校では体験的な学習を重視していることがよくわかった。 ・検定や授業満足度についての目標は100%とすべきである。 ・MOS検定の会場校に認定されたことは大変良かった。 ・教員は少ない人数で大変良くやっており、力量がきている。生徒もアクティブラーニングやSDMの取組にしっかり応えている。 ・生徒は挨拶をしっかりとしてくれるし、以前とはだいぶ感じが違う。大川学園高校は良い方向に大きく変化していると感じる。</p>	
<p>・生徒指導、進路指導ともに大きな成果を上げていると感じた。丁寧な指導がなされていることは登下校指導や服装指導を毎日行っていることからよくわかる。このような日々の努力の積み重ねによって良い方向に向いてきているのだと思う。 ・チャイム着席について、学級委員や班長など生徒の呼びかけも利用したらどうか。 ・携帯電話のトラブルは中学校でもあり、中1が最も多い。講座実施に引き続き取り組んでほしい。 ・学力だけを向上させる学校でなく、課題を抱えた生徒を伸ばしていける学校であってほしい。 ・スクールカウンセラーを常勤としてほしい。 ・今年度実施した保護者対象の上級学校説明会は今後も継続してほしいが、就職に関する保護者対象の説明会も実施してほしい。 ・服装・頭髪での指導件数ゼロというのは素晴らしい、数年前では考えられないことである。生徒は校外でもきちんとしており、指導が通っていると感じる。交通事故1件というの指導の賜物と感じる。 ・学園として、内部進学を一層強化してほしい。</p>	
<p>・市内への出前授業や上級学校訪問が中学生の意識改革に繋がっている。特に大川学園高等学校の福祉の体験授業は大きな機会となっている。 ・中学時代に不登校だった生徒がほぼ皆勤となり、きちんと就職を決めて卒業したことや、多くの生徒が大川学園高校で新たなきっかけをつかみ大きく成長できていることがよく分かった。中学生たちに、このことをアピールしていきたいと思う。 ・地域のまつりや震災復興元氣市などへのボランティア参加では大変助かり、とても良い取組だと思う。今後多くの生徒に参加してもらいたい。 ・昨年度からHPを毎日更新しているとのことだが、とても見やすくてよいと思う。一つ一つの出来事がタイムリーにわかる。修学旅行の様子もよくわかり、保護者としては大変嬉しかった。 ・HPが充実しているのもいいPRになっているのではないかと感じた。 ・負担がかかって大変だとは思いますが、福祉科のある学校として、ボランティア活動をこれからも大切にしてほしい。 ・ボランティア活動はよくやっていると思う。本学園にとって「奉仕」は大きな柱であるので、今後も頑張ってもらいたい。 ・生徒募集はとてよくやっていると思う。</p>	